

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3208558号
(U3208558)

(45) 発行日 平成29年1月26日 (2017. 1. 26)

(24) 登録日 平成29年1月4日 (2017. 1. 4)

(51) Int.Cl.

F I

B 4 4 C 5/06 (2006. 01) B 4 4 C 5/06 B

B 4 4 C 5/08 (2006. 01) B 4 4 C 5/08 D

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	実願2016-5363 (U2016-5363)	(73) 実用新案権者	598157502
(22) 出願日	平成28年11月7日 (2016. 11. 7)	庄子 金男	
		宮城県仙台市宮城野区安養寺一丁目35-22	
		(74) 代理人	100095359
		弁理士 須田 篤	
		(74) 代理人	100143834
		弁理士 楠 修二	
		(72) 考案者	庄子 金男
		宮城県仙台市宮城野区安養寺一丁目35-22	

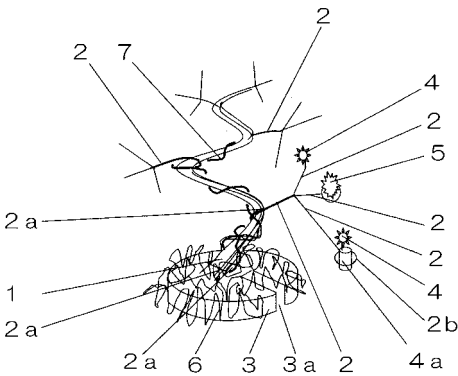
(54) 【考案の名称】 模造樹木

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】自由に形状を変えることができ、飽きずに観賞可能な模造樹木を提供する。

【解決手段】複数本の針金の束をねじって成る幹部1と、幹部1から分岐した針金の枝部2と、幹部1の端部に取り付けられた台座3とを有する。模造花4または模造果実が枝部2の先端に取り付けられている。LEDが幹部1または枝部2に取り付けられ、LEDの配線が幹部1に沿って設けられて電源に接続されていてもよい。台座3は金属製であって、幹部1の端部は台座3に固定されており、幹部1および枝部2は表面全体に樹脂系塗料がコーティングされている。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

複数本の針金の束をねじって成る幹部と、前記幹部から分岐した針金の枝部と、前記幹部の端部に取り付けられた台座とを有することを、特徴とする模造樹木。

【請求項 2】

模造花または模造果実が前記枝部の先端に取り付けられていることを、特徴とする請求項 1 記載の模造樹木。

【請求項 3】

L E D が前記幹部または前記枝部に取り付けられ、前記 L E D の配線が前記幹部に沿って設けられて電源に接続されることを、特徴とする請求項 1 または 2 記載の模造樹木。

10

【請求項 4】

前記台座は金属製であって、前記幹部の端部は前記台座に固定されており、前記幹部および前記枝部は表面全体に樹脂系塗料がコーティングされていることを、特徴とする請求項 1 , 2 または 3 記載の模造樹木。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、模造樹木に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、植木鉢等に取り付けられる針金製の表示が開示されている（例えば、特許文献 1 参照）。また、模造植物部と模造植土部を備えた模造盆栽が開示されている（例えば、特許文献 2 参照）。

20

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2 0 1 4 - 1 8 3 8 2 6 号公報

【特許文献 2】実開平 5 - 5 6 4 9 9 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】**

30

【0004】

しかしながら、従来の針金製の表示は樹木等を模造したものではなく、観賞用にはならないという課題があった。また、従来の模造盆栽は、針金を用いたものではなく、形状が決まっているため、飽きやすいという課題があった。

【0005】

本考案は、このような課題に着目してなされたもので、自由に形状を変えることができ、飽きずに観賞可能な模造樹木を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記目的を達成するために、本考案に係る模造樹木は、複数本の針金の束をねじって成る幹部と、前記幹部から分岐した針金の枝部と、前記幹部の端部に取り付けられた台座とを有することを、特徴とする。

40

【0007】

本考案に係る模造樹木は、針金の束から成る幹部を曲げたり、針金の枝部を曲げたりすることができるので、自由に形状を変え、飽きずに観賞することができる。

本考案に係る模造樹木において、模造花または模造果実が前記枝部の先端に取り付けられていることが好ましい。模造花または模造果実の種類を変えることにより、さらに飽きずに楽しむことができる。

【0008】

本考案に係る模造樹木において、L E D が前記幹部または前記枝部に取り付けられ、前

50

記ＬＥＤの配線が前記幹部に沿って設けられて電源に接続されてもよい。

【０００９】

本考案に係る模造樹木において、前記台座は金属製であって、前記幹部の端部は前記台座に固定されており、前記幹部および前記枝部は表面全体に樹脂系塗料がコーティングされていることが好ましい。

この場合、製造する際、端部が台座に取り付けられた針金の束を固定し、台座を持ってねじることにより、樹木の幹のような形状で、木に蔦が巻いたような独特の風合いの幹部を容易に形成することができる。幹部および枝部の表面全体に樹脂系塗料がコーティングされているため、幹部を構成する針金と枝部の針金の境目が樹脂系塗料で隠れ、それらが一体的なものに見える。これにより、樹木らしさを引き立たせることができる。

10

【考案の効果】

【００１０】

本考案によれば、自由に形状を変えることができ、飽きずに観賞可能な模造樹木を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１１】

【図１】本考案の実施の形態の模造樹木を示す斜視図である。

【図２】本考案の実施の形態の模造樹木に複数のＬＥＤを取り付けた状態を示す斜視図である。

【図３】本考案の実施の形態の模造樹木に模造果実を取り付けた状態を示す斜視図である。

20

【図４】本考案の実施の形態の模造樹木で用いられる（ａ）模造花の斜視図、（ｂ）模造果実の斜視図である。

【図５】本考案の実施の形態の模造樹木の（ａ）模造花の取付状態を示す斜視図、（ｂ）模造果実の取付状態を示す斜視図である。

【考案を実施するための形態】

【００１２】

以下、図面に基づき本考案の実施の形態について説明する。

図１は、本考案の実施の形態の模造樹木を示している。

図１に示すように、模造樹木は、幹部１と枝部２と台座３と模造花４とを有している。

30

幹部１は、枝数分の複数本の針金の束をねじって成っている。枝部２は、針金から成り、幹部１から分岐している。幹部１および枝部２には、付け枝部２ａが取り付けられている。針金には、ビニル樹脂を被覆したカラー針金を用いてもよい。

【００１３】

台座３は、縁から中央付近まで伸びる溝３ａを有している。台座３は、溝３ａに幹部１を挟んで、幹部１の根元となる端部に取り付けられている。台座３は、鉛などの金属製の円盤状の重りから成る。台座３は、金属のほか、木材、建材用ブロック、石などから成ってもよい。幹部１の端部は、台座３に溶接により固定されている。

【００１４】

幹部１および枝部２は、表面全体に樹脂系塗料がコーティングされている。模造花４は、枝部２の先端に取り付けられている。模造花４は、鉢状容器４ａに入れられて、先端側を環状に巻いた枝部２ｂに差し込まれていてもよい。エアープランツ５が、他の枝部２の環状にした先端に取り付けられている。台座３には、模造芝生６が接着剤で貼り付けられている。幹部１および枝部２には、模造蔦７が巻き付けられて取り付けられている。

40

【００１５】

図２に示す例で、台座３は、箱状の装飾台１０の上に取り付けられている。装飾台１０の上部には、綿から成る模造雪１１が設けられている。装飾台１０の上部には、模造芝生６が設けられている。装飾台１０の上部にエアープランツを設けてもよい。図２に示す例で、枝部２には、ＬＥＤ１２が取り付けられている。ＬＥＤ１２の配線１３は、幹部１に沿って設けられ、装飾台１０に形成された配線孔１０ａから装飾台１０の内部に挿入され

50

ている。LED 12の配線13は、装飾台10の内部で制御装置14に接続されている。

【0016】

制御装置14は、端部に電源に接続するためのプラグが取り付けられた電源コード15を有している。電源コード15は、装飾台10に形成された電源コード孔10bから外部に伸びている。電源には、家庭用100V電源が用いられる。制御装置14は、装飾台10の外面にスイッチ16を有している。制御装置14は、スイッチ16の操作によりLED12の点灯や点滅、発光色の変化などを制御可能となっている。装飾台10は、外面に石垣装飾10cを有し、底部10dを有している。石垣装飾10cは、ガラスを高温で溶解して発泡させた複数の軽石を塗装して成っている。模造樹木は、模造雪11で装飾し、LED12を取り付けることにより、クリスマスツリーとして用いることができる。

10

【0017】

図3に示す例では、模造花4の代わりに模造果実21がL字形の枝部2cの先端に取り付けられている。また、幹部1および枝部2には、付け枝部2aが取り付けられている。付け枝部2aには、紅葉などを模した模造葉が取り付けられていてもよい。幹部1および枝部2には、模造蔦7が巻き付けられて取り付けられている。台座3には、模造芝生5が接着剤で貼り付けられている。

【0018】

図4(a)に示すように、模造花4は、花卉部31と花柄部32とを一体的に有している。花柄部32は、筒状をなし、先端が上方を向いたL字形の枝部2cの先端と嵌合可能となっている。図4(b)に示すように、模造果実21は、果実部22と取付部23とを一体的に有している。取付部23は、筒状をなし、先端が下方を向いたL字形の枝部2cの先端と嵌合可能となっている。取付部23は、側面周囲に凸部23aを有し、模造果実21が抜け落ちにくくなっている。

20

【0019】

図5(a)に示すように、模造花4は、鉢状容器4aに取り付けられていてもよい。鉢状容器4aは、開口が広がった円筒状をなし、底部4bに十字状の切込み4cを有している。切込み4cに模造花4の茎部4dを挿入して取り付け可能となっている。鉢状容器4aは、先端側を環状に巻いた枝部2bに差し込まれて取り付けられる。図5(b)に示すように、他の模造花40は、1本の茎部41の両端に花卉部を有し、中間部42がU字状に折り曲げられている。他の模造花40は、中間部42を切込み4cに挿入して取り付け可能となっている。先端側を環状に巻いた枝部2bには、エアーブランチを取り付けてもよい。

30

【0020】

本考案に係る模造樹木は、針金の束から成る幹部1を曲げたり、針金の枝部2を曲げたりすることができるので、自由に形状を変え、飽きずに観賞することができる。模造花4または模造果実21の種類を変えることにより、さらに飽きずに楽しむことができる。四季に応じて四季折々の模造花4や模造果実21、模造葉を取り付け、冬季にはLED12を枝部2に取り付けることにより、四季の変化を楽しむことができる。

【0021】

本考案に係る模造樹木は、製造する際、端部が台座3に取り付けられた針金の束を万力などで固定するか片手で押さえて、台座3を持ってねじることにより、樹木の幹のような形状で、木に蔦が巻いたような独特の風合いの幹部1を容易に形成することができる。

40

【0022】

枝部2は、幹部1から分岐させて伸ばしても、幹部1または枝部2に巻き付けた付け枝部2aから成ってもよい。幹部1および枝部2の表面全体に樹脂系塗料がコーティングされているため、幹部1を構成する針金と枝部2の針金の境目が樹脂系塗料で隠れ、それらが一体的なものに見える。これにより、樹木らしさを引き立たせることができる。

【符号の説明】

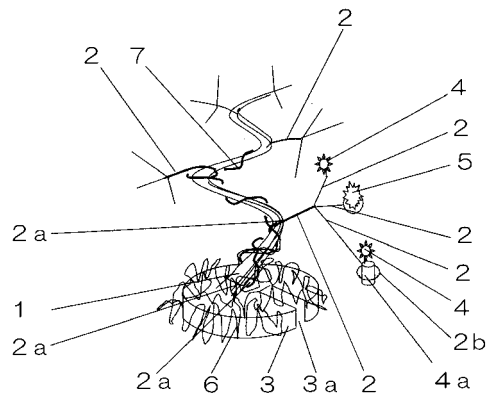
【0023】

1 幹部

50

2	枝部	
2 a	付け枝部	
2 b	先端側を環状に巻いた枝部	
2 c	L字形の枝部	
3	台座	
3 a	溝	
4	模造花	
4 a	鉢状容器	
4 b	底部	
4 c	十字状の切込み	10
4 d	茎部	
5	エアープランツ	
6	模造芝生	
7	模造蔦	
1 0	装飾台	
1 0 a	配線孔	
1 0 b	電源コード孔	
1 0 c	石垣装飾	
1 0 d	底部	
1 1	模造雪	20
1 2	L E D	
1 3	配線	
1 4	制御装置	
1 5	電源コード	
1 6	スイッチ	
2 1	模造果実	
2 2	果実部	
2 3	取付部	
2 3 a	凸部	
3 1	花弁部	30
3 2	花柄部	
4 0	模造花	
4 1	茎部	
4 2	中間部	

【図 1】



【図 5】

